

現代日本の開化

夏目漱石

内容理解

この講演で漱石は、西洋の開化を意識しながら、日本の開化の困難をわかりやすく説明している。本文を読み直しながら、空欄に入る適切な言葉を補ってみよう。

◇内発と外発

・西洋の開化（すなわち一般の開化）は内発的で、日本の現代の開化は外発的である。内発的とは、蓄^{つぼみ}が破れ花卉が外に向かうように、内から¹ に出て発展するという意味で、外発的とは外からかぶさった他の力でやむをえず一種の形式を取るのを指す。

・日本は、三韓^{さんかん}、支那にかぶれた時代もあったが、比較的内発的の開化を進んできた。それが急に日本本位の能力を失って外から無理やりに押されて否応^{いやおう}なしにその言うとおりにしなければ立ち行かない有様になった。時々には押され刻々に押されて、向後何年の間か、またおそらく永久に今日のごとくに押されていかなければならない。その理由は、西洋の開化はわれわれよりも数十倍² の機関を有する開化で、また数十倍³ ・道楽の方面に積極的に活力を使用しうる方法を具備した開化である。この圧迫によって吾人^{ごじん}はやむをえず不自然な発展をするのだから、今の日本の開化は地道にのそりのそりと歩くのではなく、気合をかけてはびよいびよいと飛んでいくのである。

◇心は動いている われわれの心、意識は、絶え間なく動いている。本を読むにしてもA、B、Cという言葉が並んでいて、Aが明らかに頭に映るときはBはまだ意識に上らない。Bが意識の舞台に上り始めるときにはもうAのほうはぼんやりして識域の方に近づいてきている。AからCへ移るときはこれと同じ所作を繰り返すにすぎない。この解剖は個人の一分間の意識のみならず、一般社会の⁴ 意識にも、また一日一月もしくは一年ないし十年の間の意識にも応用できる。すると、

語句

この文章の中で使われていた次の言葉を使って、短文を作ってみよう。

曲折（四〇五・下1）

地道（四〇六・下1）

旺盛（四二・上3）

語弊（四二・上13）

人間活力の発展の経路たる⁵ というものの動くラインもまた波動を描いて弧線を幾つも幾

つもつなぎ合わせて進んでいくと言える。開化の推移はどうしても⁶ 的でなければならぬ。

◇外発的開化の心理的影響 日本の現代の開化を支配している波は⁷ の潮流でその波を

渡る日本人は西洋人でないのだから、新しい波が寄せるたび気兼ねしているような気持ちになる。

ようやくの思いで脱却した古い波の特質やら真相もわきまえる暇のないうちに、もう捨てなければ

ならなくなる。こういう開化の影響を受ける国民はどこかに空虚の感、どこかに⁸ と不

安の念を抱くことになる。西洋人との社交では、強い西洋人の習慣に従わねばならない。自然とう

ちに発酵して醸された礼式でないから取ってつけたように見苦しい。そういう些ささいなことに至るま

で、われわれのやっていることは外発的である。現代日本の開化は皮相上滑りの開化なのである。

◇神経衰弱 西洋が百年かかって発展した開化を、日本人が十年につづめ内発的な推移をやろう

とすれば、⁹ は十倍に増さねばならない。学問を例にすれば、本当に自分が研究を積んで

内発的に、その半ばに足らぬ歳月で、西洋人が到達した分化の極端に達したとすれば、必然の結果

として神経衰弱にかかる。この理屈は開化のどの方面へも応用できて、開化の賜たまものとしてわれわれ

が受ける安心は微弱なもので、吾人の¹⁰ は野蛮時代とそう変わりはない。

うも日本人は気の毒と言わんか哀れと言わんか、まことに言語道断の窮状に陥つたものであります。

要旨

講演者の考えの中で最も大切と思われることを、指定された言葉を使って、百字程度の文章にまとめてみよう。
〈指定語〉 内発・西洋・外発

発展

次の中で興味を持った事項について、図書館の書籍やインターネットなどを使って調べてみよう。

・西洋の開化とは、どのようなものであったか。

・漱石自身の病は、どのようなものであったか。

・日本以外の東洋の国々と西洋の関係はどのようなものであったか。

100